

2007年度より整形外科常勤体制が始まった。以前の外来診療のみの応援体制ではできなかった入院治療が可能となった。

高齢化・少子化の進む宇城・三角地区では、整形外科的ニーズは高く、求められる医療も地域性があるようで、高齢者の骨折、変形性膝関節症、骨粗鬆症が大きなテーマである。

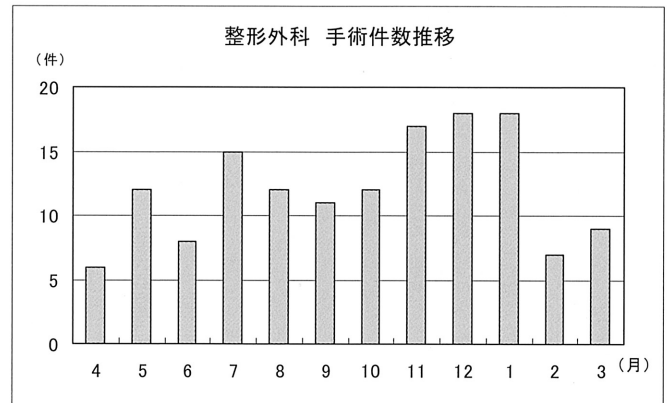
2007年の手術施術内訳は、大腿骨頸部骨折に対し骨接合術23例、人工骨頭置換術10例を行った。人工関節は、人工膝関節置換術12関節、人工股関節置換術2関節を行った。

脊椎外科では、頸髄症に対し頸椎棘突起縦割脊柱管拡大術1例、腰部脊柱管狭窄症5例、腰椎分離・分離症1例を行った。膝の関節鏡視下半月板切除、滑膜切除術を9例行い、その他を含め144例が総手術件数であった。

初年度の目標120例を超え、人工関節も月1例の12例を超え目標を達成し、みすみ病院整形外科を軌道に載せることができた。

これからの整形外科の運営は、骨折や外傷のみに頼るのではなく、腰部脊柱管狭窄症や変形性膝関節症などの変性疾患に対する脊椎外科や人工関節など、メジャーサージャリーを病院の看板にしたいと思う。2007度は、メジャーサージャリーの比率が15%程度であったが、2008年度は更に20%台に伸ばしたいと考えている。

このような手術症例を増やす機会、救急のみでなく、一般外来での患者さんとの治療・対話から生まれるといえる。外来診療枠は4月は週2回であったが、7月より週3回体制とし、年間の平均患者数は28.6人（内初診4.9人）であった。外来でMRIや骨密度測定など正確な診断を行い、関節内注射や神経ブロックなど適切な保存療法を行っても改善しない症例は積極的に手術を勧めてきた。2008年度も外来重視の整形外科運営を行っていく予定である。



整形外科手術内訳

